

秋も深まり冷たい雨が降る十月●●日明朝、此処に八十有●歳の人生の、  
その尊き営みの一切をなし終えて、寂然としてこの世の命を結び去らんとす  
るの人あり。魔風一度吹きてついに帰らず、悲しいかなせん方もなく今ここに  
あなたを貴方をお送りいたします。

[illegible]

また、最愛の伴侶となる●●夫人と結婚し幸せな家庭を育み、その幸せの中で一女一男を授かるも、幼くしてご長男をなくされるという、悲しい思いもされました。

まやご長女様、お孫様に幸せに見守られていらつしやいます。  
 在りし日の、懸命に貿易事業に励まれた貴方のお姿、いろいろなことに夢中  
 になつて取り組まれた貴方のお姿、また、他者への優しさに満ち溢れ多くの  
 友人に恵まれた貴方のお姿やお孫様へ一心に愛情を注がれた貴方のお姿など、  
 貴方が歩んでこられたことを物語る全てのお姿が、これからもご家族様の心に  
 とどまり、時として人生の道しるべとなつてくださることに存じます。

此のなまみの身体を持つかぎり、病むことは、そして命終る日を迎えねばならぬということとは、だれひとりとして逃れる事の出来ない哀しい定めであります。  
既に<sup>すて</sup>にして、その身の<sup>み</sup>上<sup>うへ</sup>に<sup>おこ</sup>起つて来たことは、そして、どうしても逃れる事の出来ないものは、そのままに、正しく<sup>まさ</sup>受<sup>う</sup>けて行<sup>い</sup>くより道<sup>みち</sup>はございません。

貴方あなたと共に幸しあわせな人生じんせいを歩あゆみ、晩年ばんねんは徐々じょじょに身体からだが動うごかしづらくなつた。貴方あなたを懸命けんめいに支ささえ尽くしてくれた家族親族かぞくしんぞく、その方かたたちの深い深い愛情あいじように感謝かんして、その世話せわを受けることが出来たことを此この世よの幸しあわせとして、どうぞ安らかに如来にょらいのみ国くににお歸かえりください。本日葬送ほんじつそうそうの儀ぎに臨のぞみ、家族かぞく、親族しんぞく、共に集つどい、貴方あなたへの大きな大きな感謝かんしゃの気持ちきもちを胸むねに、共に合掌がっしやうして阿弥陀あみだ如来にょらいのみ名なを唱となえてここに貴方あなたをお送りおくいたします。どうかお浄土じやうどに在ありて、先に旅立たびだったご先祖様せんぞさまとともに、後に残りのこしご家族かぞくを見護みまもりつつ、ほほえみの中に生き給たまわんことを念ねんじ上げます。

新帰元しんきげん、●●●信士しんし、靈位れいゐ、今いま、多生廣劫たしやうこうごうを経て生まれ難にんがき人界じんがいに生まれ、無量億劫むりやうおくごうにも遇あい難にんがき仏教ぶつぎやうに逢あえり。この度たび、生死しやうじと離はなるる道みち、浄土じやうどに生まる。彼かの国くにに生まるること、ただ弥陀みだの本願ほんがんに乗り、生死しやうじの海うみを渡わたり、極楽ごくらくの岸きしに着きくべきなり。

阿弥陀あみだ仏ぶつ、かねて末代まつだいの衆生しゆじやうを憐あわれみ、無上殊勝むじやうしゆしやうの大願たいがんと起おこし、易修易行いしゆいぎやうの念仏ねんぶつをもつて直ただちに往生おうじやうと得えせしめ給たまう。これを念仏往生ねんぶつおうじやうの本願ほんがんと言う。すなわち無量寿經むりやうじゆきやうに曰いはく、もし我われ仏ぶつと得たらんに十方じふぱうの衆生しゆじやう、至心ししんに信樂しんがくして我が国くにに生なぜんと欲ほつして乃至十念たしじゆんせんに、若し生なぜずば正覺しやうがくを取らじと。

まさを知るべし、本誓ほんぜいの重願じゆうがん空くうしからず、衆生しゆじやう称念しやうねんすれば必ず往生おうじやうすることと得え。

今当いままさに靈おうが往詣けらく樂邦らくはうの首途かどいでに臨かどんで一句いっく 錢せん。

諦あきらかに聴きけ、諦あきらかに聴きいてよく之これを思念しゆんねんせよ。

釈迦しやくかはこの方ほうより發遣はつせんし、弥陀みだは彼かの国くにより來迎らいごうし給たまう。かしこに喚よびこに違ちがふ。あに行ゆかざるべけんや。

松明放下

莫謂まくい西方遠さいほうおん唯須ゆいしゆじゆん十念心じゆんしん (十念)

## 後段訳

今、私たちは非常に長い間(多生広劫)輪廻を繰り返してもなかなか生まれることのできない人間としてこの世に生まれ、また数限りないほど長い時(無量億劫)を経ても巡り会うことのできない仏教の教えに出会うことができました。

この度、迷いの世界(生死)と離れる道、すなわち浄土に生まれるのです。かの

極楽浄土に生まれることは、ただ阿弥陀仏の立てられた本願に身をゆだね、海の  
のように広い迷いの世界を渡り、極楽の岸にたどり着くのです。

阿弥陀仏は、あらかじめ、お釈迦様がなくなって相当の期間が経過した時代の私  
たちのような者たちを深く憐れみ、この上なく優れて特別な誓い（無上殊勝の大  
願）をたてられました。そして、修めやすく行いやすい念仏によって、直ちに浄  
土に往生できるようにしてくださりました。これを「念仏往生の本願」といいま  
す。

すなわち、『無量寿経』には、次のように説かれています。「もし私が仏になっ  
た時に、あらゆる世界の人々が、心から（至心に）私を信じ慕い（信樂して）、  
私の国に生まれたいと願い、わずか十回でも念仏を称えるのに、もし彼らが往生  
できないようであれば、私は決して仏の悟りを開かない（正覺を取らない）」と。  
そして今、阿弥陀様のこの重い願いは実現し、私たちが念仏を称えれば、必ず浄  
土に生まれることができますのです。

今まさに、安らかな浄土（楽邦）へ旅立つ門出にあたり、最後に一句を贈ります。

よく聞いてください。よく聞いて、この教えを心に深く念じてください。

お釈迦様は、この世（娑婆）から「行きなさい（發遣）」と送り出してくださり、  
阿弥陀様は、あの極楽浄土から「迎え入れよう（來迎）」としてくださっています。  
す。あらから呼び、こらから送り出すのです。あなたは必ず往くのです。

莫謂西方遠 唯須十念心（西方（極楽浄土）は遠いなどと言うなかれ。ただ十念  
の心（念仏を称える心）ともらいればよいのです。）

浄土宗西山深草派 高城山 歸命院 十念寺 沙門 賢空